

第5学年 図画工作科学習指導案

福岡市立〇〇小学校 指導者

児童数 男子 名 女子 名 計 名

1 題材名 「ぼく・わたしがヒーローだ」～活やくするぼく・わたしを版に表す～

2 指導観

○ 本学級の子どもたちは、1学期に友だちと楽しんだ学校生活を絵に表していった。

線描きでは、モデルとなる子どもの特徴をとらえながら、友だちの顔を描くことはできた。しかし、人物の大小関係や重なりなど奥行きを考えた画面構成ができるまでにはいたっていないため、自分が表したい思いが伝わりにくかった。

鑑賞では、自分や友だちの表現のよさを感じるどころが特定の作品に集中しており、一人一人のよさを感じるまでにいたっていない。

以上のことから、大小関係や重なりなど奥行きを考えて、表したい思いを伝えようとする力を育てると共に、さまざまな表現のよさに気づいていく力を育てていきたい。

○ 本題材は、友だちと共に好きなことや得意な活動をする自分を表すことにより、意欲をもって版に表すことをねらいとしている。また、表したい思いがよく伝わるように画面構成を工夫すると共に彫刻刀の特徴を生かした彫り方を工夫することをねらいとしている。

本題材がもつよさは以下のようなものが考えられる。

- ・ 自分の学校生活の好きなことや得意なことを選んで描くことで、意欲をもって取り組むことができる。(関心・意欲・態度)
- ・ 思いを伝えるために表したいものの大小関係や重なりなどの奥行きを考えて画面構成を工夫することができる。(発想・構想の能力)
- ・ 表したいことを効果的に伝えるための彫りの特徴を生かして彫刻刀を選んだり、彫り方を工夫したりすることができる。(創造的な技能)
- ・ 活動や作品を交流することにより、伝えたいことがよくわかる画面構成や彫り方のよさに気づき、学び合うことができる。(鑑賞)

○ 指導に当たっては、5年生になってからの学習活動を振り返り、活躍している自分を伝えるため、画面構成や彫り、刷りなど版の表し方を工夫しながら表現できるようにしたい。

そのために、題材と出合う段階では、1学期のさまざまな学校生活を振り返り、どの活動で活躍している自分を表すのか決定させるために、写真や映像を提示し、版に表したい自分の活躍をイメージすることができるようにする。

線描きの段階では、画面の中の自分や友だちの位置をはっきりさせるために、大まかな位置の見当をつけさせてからスケッチさせる。

そして、線描きを版に写す段階では、人物の位置や大きさを変えた資料を提示し、活躍する自分の様子がさらによくわかるように工夫させる。

- ・ 自分とまわりの人やものの大きさを変えると、奥行きを表すことができる。
- ・ 自分とまわりの人やものの重なりを変えると、奥行きを表すことができる。
- ・ トリミングすると、画面の中心に自分を表すことができる。
- ・ 画面に必要なものを切り取って動かすと、表したいことをはっきりさせることができる。

彫る段階では、表したい思いを効果的に伝えるために、彫りの資料の提示と彫りの演示を行う。ここでは、彫りの特徴を生かして彫刻刀を選んだり、彫りの方向や長さなどを変えたりして工夫させる。

刷る段階では、表したい思いがよく伝わるように、背景に色をつけることを伝える。そして、自分の作品に合う色を選択し、線彫りした版に色をつけて、刷らせる。その後、刷り進めた版に黒イ

ンクで刷らせる。

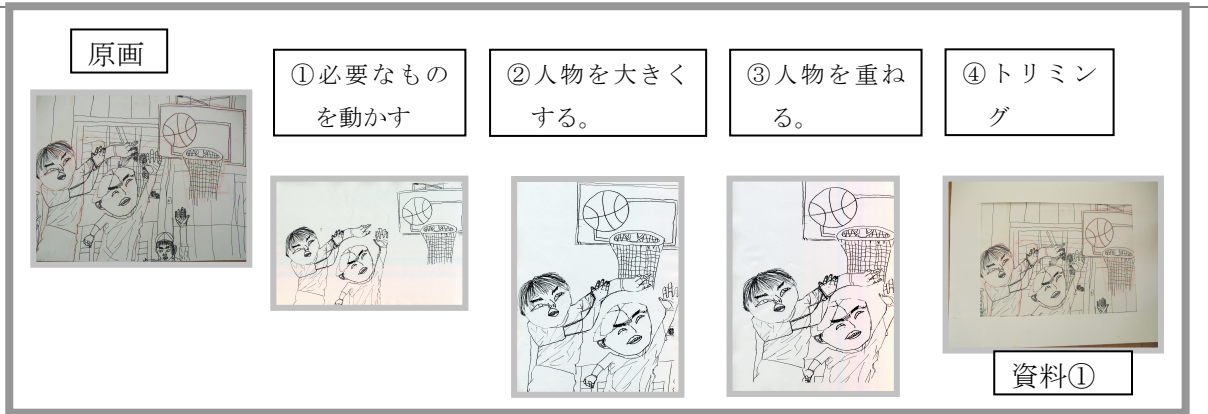
また、線描き、彫り、刷りの各段階で自分の活動を振り返り、友だちとのちがいや友だちのよさを学ぶ場を設定する。そこでは、工夫しているところやどんな彫り方をしたかなどを伝え合うことにより、互いの作品のよさを感じたり、自分の作品に生かしたりできるようにする。

3 単元目標

- 学校生活で活躍している自分を版に表す楽しさを味わうことができる。(関心・意欲・態度)
- 活躍している自分の様子や思いが伝わるように、画面の自分の位置や大小関係、重なりなど奥行きを考えて画面構成することができる。(発想・構想の能力)
- 彫刻刀の彫りの効果や色のバランスを考えて彫ったり、背景に色をつけたりすることができる。(創造的な技能)
- 作品を見合いながら、画面構成や彫り、刷りのよさに気づくことができ、楽しさを味わうことができる。(鑑賞)

4 単元の指導計画 (総 8 時間)

時間	子どもの活動	教師の指導	評価基準
1	<p>1. 1 学期の活動を振り返り、題材を選ぶ。</p> <p>2. 構図を考える。 <画面構成①> ラフスケッチ ・ 自分と友だちの位置を簡単に考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1 学期の活動を思い出すことができる図工ノートを用意する。 ・ 写真を提示し、1 学期の活動を振り返ることができるようにする。 ・ 画面を構成するため、資料を用意する。 ・ 大きさや配置を変えるだけでも、絵の感じ方が変わることを感じさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ どんな活動を楽しんでいるか、活躍しているか図工ノートに書いている。(関心・意欲・態度) ○ 画面の中の自分の位置をどこにするか工夫している。(発想・構想の能力)
2	<p>3. 線描きをする。 <画面構成②> ・ 自分の位置、大小関係や重なりなどの奥行きに気をつけて線描きをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 活躍する自分をさらにはっきりさせるために画面構成を工夫させる。(大きさを変える・重なりを変える) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 活躍する自分をさらにはっきりさせるために、画面構成を工夫している。(発想・構想の能力)
3	<p><画面構成③> ・ 伝えたい思いがさらによく伝わるようにトリミングや人物の位置、重なりを変えるなど工夫する。</p>		



4. 線描きを版に写す。

- ・ 友だちと交流する場を設け、お互いの表し方のよさに気づかせる。

4
5
6

5. 彫刻刀の安全な使い方や彫り方を確かめる。

- ・ 彫刻刀の彫り方を演示する
- ・ 彫刻刀の安全な使い方を確かめる。

6. 彫刻刀を選んで、彫りの見通しをたてる。

- ・ 彫り進めるところに色をつけさせる。
- ・ 線を表現するところは太くさせる。

- 彫る部分と残す部分を色分けしている。
(発想・構想の能力)



資料②

7. 彫刻刀の特徴を生かして彫り進める。

- ・ 各彫刻刀の刷り上がりの資料を提示する。

- 彫刻刀を選んだり、彫る部分を決めたりして彫り進めている。
(創造的な技能)

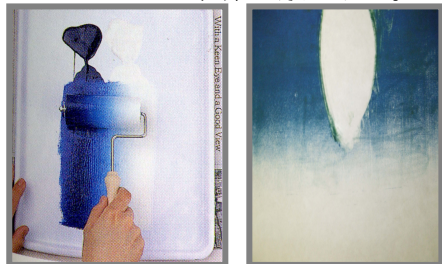


資料③

8. 色を選んで、第1版を刷る。

- ・ インクのつけ方・ふき取り方を演示する。
- ・ 色の効果を知らせる資料を提示する。
- ・ 版木と刷り紙の位置をつけた台紙を準備する。

- 表したい思いにあった色を選んで刷っている。
(創造的な技能)
- 友だちの彫りのよさを学んでいる。
(鑑賞)



7 本時 8	<p>9. 活躍している自分を黒インクで第2版を刷る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 第1版の刷りを振り返る。 第2版の刷りを確かめる。 <p>10. 1枚目の作品をもとに、2枚目の作品の色を工夫して刷る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 色をつける部分を変える。 つける色を変える。 黒インクのみで刷る。 <p>11. 作品を鑑賞する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 第1版の刷り方を振り返り、第2版の刷りを確かめる。 第1版のかどと第2版のかどを合わせることを確かめる。 刷った作品を掲示するパネルと色別の印刷コーナーをつくる お互いの作品のよさや違いを認め合う場を設ける。 (題材・画面構成・表情や動き・色のつけ方) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 表したい思いが明確になるように色のつけかたを工夫している。 (発想・構想の能力) ○ 刷りの手順を考えて刷っている。 (創造的な技能) ○ 自分や友だちの表現のよさを見つけている。 (鑑賞)
--------------	---	---	---

5 本時 平成21年10月19日(月) 第5校時 14:20～ 図工室において

6 本時の目標

- 刷りや色の効果を考えながら、刷りを楽しむことができる。
- 表したい思いに合った色のつけ方を工夫しながら刷ることができる。

7 本時指導の重点

前時までに子どもたちは、自分が活躍していた場面を線描きし、それを版木に転写し彫り進めてきている。前時は、第1版の色を選択し、自分の表したい思いに合った色で刷っている。

本時は、第2版を黒インクで刷り、2作目の第1版の色を考えることをねらいとしている。

そこでまず前時を振り返り、2版目の刷り方の手順を確かめる。その際、黒インクの練り方とつけかたの演示を行う。注意事項を確認した後、本時のめあてを知る。

次に、第2版を黒インクで刷り1作目を完成させる。つまづいている子どもには個別指導をし、インクの練り方やつけ方などを一緒に確認する。

1作目が完成した後、表したい思いに合ったインクの色つけ方を工夫して、2作目の第1版を刷る。1作目をもとにして、表したい思いがもっとはっきりわかるように第1版の色を考え、自分の表したい思いにあった色で刷る。

そして、自分や友だちの作品のよさを発表し、認め合う場を設ける。題材、画面構成、表情や動き、色のつけ方の4つのポイントで話し合うようにする。


最後に、今日の学習で友だちと交流してよかったところ、色の効果などを振り返りまとめをする。

8 準備

子ども・・・版木

教師・・・版画インク、刷り紙、ローラー、練り板、ばれん、ぼろ布、新聞紙

9 本時の展開

学 習 活 動 ※留意点	○教えること ◆学ばせること
<p>1. 前時を振り返り、2版目の刷りの手順を確かめる。</p> <p>第2版を刷る。(黒インク)</p>  <p>※ インクの練り方・つけ方を確かめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ インクの練りの模様が小さな波になれば、版木につけることができる。 ・ インクを版につける時は、一方向につける。 <p>2. 本時のめあてを知る。</p> <p style="text-align: center;">めあて</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>表したい思いが、もっとはっきりするように インクのつけ方を工夫して刷っていこう。</p> </div>	<p>○ 黒インクの練り方・つけ方を確かめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 練り板にインクの小さな波ができるまで練る。 ・ 練りの方向はできるだけ一方向にする ・ インクが版についているかを確かめる。
<p>3. 表したい思いに合ったインクの色つけ方を工夫して刷る。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 1作目を黒インクで刷る。 (2) 2作目の色を選び、色をつける。 (3) 2作目を黒インクで刷る。 <p>4. 完成した作品を鑑賞する。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 自分や友だちの表現のよさを話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 題材 ・ 画面構成 ・ 表情や動き ・ 色のつけ方 (2) 次の作品の色選びや、色つけ方の工夫を話し合う。 <p>5. 学習を振り返り、まとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 友だちと交流してよかったこと、色の効果などを振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 1作目をもとに表したい思いがもっとはっきりわかるように、2作目の第1版の色つけ方を工夫すること。 ● 自分や友だちの作品のよさを感じて表現すること。

10 板書



めあて

表したい思いがもっとはっきりするように
インクのつけ方を工夫して刷っていこう。

鑑賞のポイント

題材 ・ 画面構成
表情や動き ・ 色のつけ方

刷り方の手順

刷り方の資料

今日の振り返り